

vol.2 フィルムになった風景

ロケ地は“鬼怒川”アンダーザ

「豊水橋」

新藤兼人監督、最後の作品でラストを飾った

「麦畑」



鬼怒川の河川敷に組まれた『荒川 アンダーザブリッジ』のロケセット。奥に見える橋が豊水橋

常総市

中村光さんの人気コミックを映画化した『荒川 アンダーザブリッジ』は、とある事情で荒川河川敷に住み着くことになった大財閥の御曹司リクと「金星人」を名乗る謎のホームレス美少女二人、奇怪で強すぎる個性の河川敷住人たちの交流を描いた新感覚ハートフル(?) ラブコメディ。川が舞台の映画なので、監督のイメージに合う河原を探すこともさることながら、撮影許可が下りるかどうか、またまた大問題! でした。

川の増水や洪水対策もあって、基本的に構造物が作れないのが河川敷。ロケセットを組んでの長期ロケの撮影許可には、実は“高いハードル”が待っていたりするので…。そこに登場するのが撮影業界で地味に有名な“困ったときの常総市”。「コンパクトながらも高密度」と花火ファンに評価の高い「常総きぬ川花火大会」の会場となっている割と広い河川敷がありました。毎年開催しているイベントなので監督官庁との信頼関係もあったことが、撮影実現に結びつきました。

もちろん、畑があったり、高校の運動場があったり、雑草の生い茂る原っぱがあったりの生活観たっぶりの風情が、飯塚健監督のお気に召したことは言うまでもありません。

撮影が始まると、河川敷には“奇妙な”小屋が建てられました。「鬼怒川に何が建っているんだ?」「何やってるの?」という問合せの多さには苦労しましたが、やっと撮影開始! というタイミングで発生した「東日本大震災」…常総市にも

たくさんの被害があつて撮影は中断。1カ月後にやっと再開に漕ぎ着けたものの、河川敷の撮影許可期限は迫る、俳優さんたちのスケジュールはないなど、スタッフの皆さんも諸々の調整に大変な苦勞をされたことと思います。

完成した作品を見ると、茨城県の片田舎の常総市で撮影したことなど少しも感じさせない見事なカメラワーク! でも、画面の片隅に、常総市の人でないとわからない豊水橋や八間堀の赤い水門の姿を見つけることが、地元人ならではの密かな楽しみでもあります。



静かな感動を呼ぶラストシーンとなった麦畑
©2011『一枚のハガキ』近代映画協会 / 渡辺商事 / ブランダス

もう一つは映画『一枚のハガキ』——常総市では映画のラストシーンとなった“麦畑”が撮影されました。主人公の2人が麦畑の中で仲良く朝食を食べるシーンは、素敵なエンディングになっています。

常総市の麦畑が選ばれた理由は、ひっそりとした中でも希望を持って生活している感じの出せる所という監督のご希望で、森の木々に囲まれたこの畑となったそうです。畑の麦が風に揺れるシーンでは機械仕掛けの風ではダメ! (普通は、扇風機などで風を起こして撮ります) ということで、10分でも、20分でもお好みの風が吹くまで待っての撮影でした。この映画に懸けた監督の想いを、垣間見た瞬間でした。

『一枚のハガキ』は新藤兼人監督の“映画人生最後にして最高の傑作”という触れ込みで、映画公開のキャンペーンを実施していました。撮影当時、監督は98歳。メガホンを持ち、俳優さんたちに演技指導する姿はまだまだお元気で、これが本当に最後の作品になるとは思ってもみませんでした。

もう1作品、監督の映画が見たかったです。

ご冥福をお祈りを申し上げます……

(執筆/常総フィルムコミッション 上野隆志)

◆映画「荒川 アンダーザブリッジ」 2012年公開
監督: 飯塚健
出演: 林遣都、桐谷美玲、小栗旬、山田孝之、城田優ほか

◆映画「一枚のハガキ」 2011年公開
監督: 新藤兼人
出演: 豊川悦司、大竹しのぶ、六平直政、柄本明、倍賞美津子ほか